

Pick up!

## 輝く男性の家事・子育て体験記

私の子育て生活 ～できることから楽しみながら～

公務員 K・T

妻と長女（7歳）、長男（3歳）の4人家族で暮らしています。夫婦で共働きの家庭です。これまでも、できる範囲で家事・子育てに参画してきましたが、多くは妻に甘えていた部分がありました。しかし、妻の人事異動と長女の小学校進学により、この1年は大きな変化がありました。そうした私の子育て体験について、お話ししたいと思います。

4～5月頃は、異動直後の慣れない環境、新年度の繁忙期で妻の仕事上の負担が大きく、比較的落ち着いていた私が帰宅し、子どもたちの面倒を見ることが多くなりました。

夕食の準備・片付け、入浴や寝かしつけなど一通りをなんとかこなすものの、ママがいない寂しさに長男がさめざめと泣いてしまうことだけはどうすることもできず、父親の無力を感じたこともありました。初めの頃は、妻の帰宅にもものすごい安心感を覚えたことを思い出します。



そうしたバタバタが少し落ち着いた頃、次の懸念は初めての小学校の夏休みの過ごし方についてでした。

子どもたちには楽しい夏休み、でも1日中1人で家に残すわけにはいきません。学期中は、帰宅後の長女の面倒を祖父母に見てもらっていましたが、それが朝から毎日となると負担も増大。7月下旬からは、我が家からは少し距離のある放課後児童クラブに通うことにしました。

（事情により自宅近くの学童は通えませんでした。）

妻が早出勤務（8時出勤）をしているため、朝の送りは私が担当することに。公共交通を利用して長女と2人で通い、児童クラブの開園を待って、見届けてから職場に向かいました。到着時間の関係上、遅出勤務（9時出勤）を利用し、勤務時間をカバーしたところでした。（帰りの迎えはどうしても困難だったため、ファミリーサポートセンターにお世話になりました）

朝早くとはいえ、晴れた日の暑さは相当なもの。毎日汗だくになる道中でしたが、住宅街を通るルートを変えてみたり、たまにコンビニに寄り道をしたり、長女は楽しかったようです。

歩きながら児童クラブでの様子を聞いたり、待ち時間に宿題や習い事の話をしたり、平日でも触れ合いの時間を持つことができたように思います。

少し変則的ではありますが、勤務時間（8時間）を変えることなく、こうした形で子どもたちに付き添うことができたのは、柔軟に勤務時間を選択できる制度があり、それを活用できる職場の理解があつてこそです。子育てに参画しやすい環境であり、とても感謝しています。

現在は、育児休暇を取得する男性が少しずつ増えているなど、男性の家事・子育てへの参画のあり方は大きく変わっています。私にとって、育児休暇の取得はまだハードルが高いですが、共働きをしている以上は家事・子育ても分担しなければいけません。少しずつではありますが、参画の度合いを高めているところです。

世のイクメン男性と比べるとまだまだ経験値など低いですが、“先ず隗より始めよ”。

今後もできること、気づいたことから少しずつ、そして楽しみながら頑張っていきたいと思っています。

